

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 433 回 これが、プロの仕事師哲学だ！

2011.8.21

「地獄の特命部隊・プロ養成講座」と言うものがあるらしい。
何となく、米軍のデルタフォースや英軍のSOF、東京警視庁のSATなどの特殊部隊を連想させる凄さがあるが、これは民間企業が運営する、圧倒的セールスマンを養成する研修講座のことである。その、50以上あるミッション録を垣間見た。

前提は...

完全なる男女同等である。
「平等」ではなく「同等」、同じと扱う事が前提になっている。
そもそも生理的・肉体的に差異があるにもかかわらず、
一切考慮しない。

なんびとであれ、結果がすべてと知るべし。
情状酌量は、プロの仕事にはありえない。

子育ては大事にすべし。生物たる親の、究極の使命である。
だからこそ、子育てを「仕事ができない理由」にする勿(なか)れ。
その時点で君の顔は、仕事のプロではなくなっている。

諦めるな。
一度諦めたらそれが習慣となる。

明日はなんとかなると思う馬鹿者。
今日でさえ遅すぎるのだ。
賢者はもう昨日済ましている。

変化を察知し、対応できない輩は、その時点で退化する。
退化へ向かう人に、魅力を感じるお客はいない！

実績を出す仕事は自前の金を使うべし。
更にその数十倍の気を遣うべし。

人から言われてやった練習は努力とは言わない。
仕事は当然、自分で創るもの。

生きるとは呼吸することではない。行動することだ。

昨日と同じ、現状維持では 後退するばかりである。

われらの最大の栄光は、一度も失敗しないことではなく、
倒れるごとに起きることにある。

やりたい事をやるべからず、やるべき事をやるべし。

生きる勇気を持たないものは、戦う前に消えていく。
挑戦せずして逃げる奴を、責めない、怒らない、批判しない。
今後、二度と相手にしないだけだ！

リーダーとは与えられたルールの中で努力する者ではなく、
ルールを作る者でなければならない。

健康を害したら、プロの仕事師はそこで終わり。
誰よりも堅強な体力を維持すべし。
そのためには自分との、壮絶な戦いを継続すべし。

いかがだろうか？

今時でない...まるで戦中の「修身」教育の香りがする???

でも、トップを競い合う高級官僚の世界、厳しい競合環境の中で動く、大企業のエグゼ
クティブビジネスマンは、今でもこんな、日常茶飯事の中で仕事をしている...

そう、結果がそれを検証しており、これもまた、現実である。